

なぜ、イスラエル人のイエス・キリストが私たちの救い主なのか？

1. まず、神とはどういうお方か、3つ、お話しします・・・

第一に、神は唯一です。ほかに神はありません。日本の神、外国の神というように、国別の神ではありません。山の神、海の神というように場所によっての神でもありません。神はただおひとりであり、山も海も、すべてのもの、天地万物をお造りになった創造主なる神です。私たち人間も、神によって造られ、神から、いのちをいただきました。ですから、すべての国の人々にとって神であるお方です。

第二に、神はすべてを知っておられ、みこころにかなうすべてを行うことのできるお方です。これを、全知全能の神といいます。全知全能の神だからこそ、私たちはこの方の前にひざまずき、信頼することができます。

第三に、神は愛です。愛というのは、ひとりだけでは成り立ちません。愛し、愛される関係があって成り立ちます。ですから、神は唯一、ただおひとりだけですが、神ご自身の中に愛し合う3つの神が存在します。父なる神、子なる神、そして聖霊なる神です。そして、神が私たち人間をお造りになったのは、神が人を愛し、人もまた神を愛するという関係になるためです。

2. 神が造ったのなら、どうして戦争や争いのない世界にしてくれないのか？

戦争や争いが起きるのは、争ってでも手に入れたという欲望が人の内側にあるからです。そのような欲望は、神が最初に人を造ったときには、人の内側にありませんでした。人は本来造られたときの正しい姿を失ってしまいました。そして、いのちの源である神から離れた人は、死ぬべきものとなってしまいました。

父なる神は、人を本来の正しい姿に回復し、神とともに永遠に生きることができるよう、子なる神を人としてこの世に生まれさせ、この世に遣わしてくださいました。このお方が、救い主・イエス・キリストです。

3. 救い主・イエス・キリストとは・・・

救い主とは、救助者。人を死から救ってくれるお方です。

イエスとは、人としての名前です。イスラエル人の男性にはよくある名ですが、その意味は「救い」です。

キリストとは、イスラエルの王、それも普通の王ではなく、永遠に生きて全世界に正義と平和をもたらす王を意味します。

イエスは、今から約2千年前、紀元前6年か7年の頃、イスラエル人として生まれました。30歳代に、自分はキリストであると宣言し、3年半の間、イスラエルの国内を巡って数多くの奇跡を行いました。

しかし、イスラエルの指導者たちは、イエスをキリストとは認めず、紀元30年4月、無実の罪でイエスを十字架にかけました。

イエスは十字架の上で死んで、墓に葬られました。そして、イエスが予告していたとおりに、三日目によみがえったのです。それも、単なる蘇生ではなく、二度と死ぬことのない体をもって復活しました。

そして、復活から40日後に、弟子たちが見ている中を天に昇りました。キリストは今も生きておられます。天の父なる神のもとで、私たちのために、とりなしてくださっています。

4. キリストが死んで復活したとしても、それと私たちと何の関係が？

キリストが死んだのは、私たちの罪の身代わりです。罪とは、神に背を向けて自分勝手に生きる生き方であり、その中で人が犯す様々な悪い行いすべて、です。

キリストが復活したのは、キリストを信じる者を死から解放し、キリストと同じ復活のからだを与えるためです。

5. キリストの死が私たちの身代わりとは、どういうことでしょうか・・・

キリストは、神であられるのに人となってくださり、私たちと同じ弱さを持ってくださり、私たちと同じ苦しみに会いました。しかし、私たちと違うのは、誘惑に負けなかったことです。キリストは、その生涯に一度も罪を犯したことがありませんでした。

そのキリストが、無実の罪で十字架にかけられて死にました。その死は、私たちの罪の身代わりだったのです。

十字架の上に、私たちの罪がのせられ、
キリストの正しさが、信じる者の上にのせられます。

6. キリストの正しさが自分の上にのせられると、どうなるのでしょうか・・・

神の前にあなたは罪なき者とされ、正しい者と認められます。そして、キリストの復活の体と同じ、二度と死ぬことのない体をいただいて、再びこの地上に立つ日が来ます。

7. 地上に立つ？ 死んだら天国に行くのでは？・・・

キリストを信じた人が死ぬと、その人の霊魂は天に引き上げられて、復活の日を待ちます。そこを一般的に「天国」と呼びますが、聖書が「天の国」とか「神の国」と呼ぶのは、実はそこではなく、この地上にやがて建てられる、キリストの国です。

将来、キリストが天からお帰りになって、全世界の王とされます。そのときには、公平で正しい政治が行われ、戦争のない平和な世界となります。そして、神の力によって、自然環境も豊かに回復されます。

天で復活の日を待っていた信者の霊魂は、復活の体をいただき、キリストとともに地上に帰り、神の国に入ります。

8. どうして、そのようなことを信じることができるのでしょうか・・・

キリストは、聖書が預言していたとおりに現われ、死んで葬られ、三日目によみがえりました。ここまでの預言が成就したのですから、将来に関する預言もまた必ず成就すると言えます。

神は、私たちに信じることができるよう、聖書を与えてくださいました。

9. 聖書は、だれが書いたのでしょうか？（ここから本日のテーマに関係します）

イスラエル人たちです。

旧約聖書は全部で 39 巻あります。最初の 5 つの巻は、紀元前 1400 年頃、モーセという人が書きました。最後のマラキ書は、紀元前 440 年頃、預言者のマラキという人です。モーセから実に 1000 年くらいです。

新約聖書は全部で 27 巻あります。紀元 1 世紀、キリストの弟子たちが書きました。彼らもまた全員がイスラエル人です。

このように、長い年月の中で、多くの人たちが書いた 66 巻の書物を合わせたものが聖書ですが、その内容はバラバラではなく、つながっています。聖書の真の著者は、神だからです。神がイスラエル人たちを用いて聖書を全人類に与えてくださいました。

10. なぜ、神はイスラエル人を用いたのでしょうか・・・

もともとイスラエル人という民族がいたわけではありません。イスラエル人は、神が全人類を救うために、「復活を待ち望む」民として育てた民族です。人が死から救い出されるためには、神には死者をよみがえらせる力があると信じる必要があります。ですから、神は、復活を信じる民としてイスラエル人を育てられました。

11. 神はどうやって、イスラエル人を育てたのでしょうか・・・

今から4千年ほど前に、神は、アブラハムという一人の人を選び、神が示すところまで行きなさいと言って、今のイスラエルという国がある場所までアブラハムを導きました。

そこまで来て、神はアブラハムに「この一帯の土地を、あなたとあなたの子孫に与える」と約束しました。そのときアブラハムはすでに75歳、子どもはいません。妻のサラは不妊症でした。子どもができない体だったのです。

しかし、アブラハムは神の約束を信じました。神を信頼する、神の約束を信じる、これが神の恵みを受け取る道です。アブラハムは自分と妻の体が子を産めるような状態にはなく、死んだのも同然の体だとわかっていましたが、神を信じたのです。すると、100歳のときに子が与えられました。

では、土地を与えるという約束はどうなったのでしょうか。

実は、神はアブラハムに、こうも言われたのです。「あなたは穏やかに生活して死ぬ。四代目の子孫たちがここに帰って来て、この土地を受け取る」と。

そうすると、「あなたとあなたの子孫に与える」という約束は、子孫については実現しても、自分についてはそうはならない、ということでしょうか。

そうではありません。アブラハムは、神の約束が必ず成るとするなら、「自分は一度死ぬけれど、よみがえってこの土地の上に立つはずだ」とわかったのです。

アブラハムのこの信仰、「神を信じる者は死んでも復活する」という復活信仰は、アブラハムの子イサクに、さらにその子ヤコブに引き継がれました。ヤコブは12人の息子を得て、そこからイスラエルの12の部族が起こされ、イスラエル民族となりました。

このようにして、イスラエル民族は、神を信じ、死者の復活を信じる民族として、神が育てた民族なのです。そして、彼らに聖書を託し、キリストもイスラエル人の中から生まれさせました。キリストが復活して、全人類に「永遠のいのち」という確かな希望を与えるためです。

12. 死んでおしまい、ではありません。信じて永遠のいのちを受けましょう

多くの人が「死んでおしまい」、死んだ先には何もないと、あきらめています。ある日突然、自分という存在がなくなってしまうことを思うと、何ともむなしく、悲しいものです。しかし問題は、あきらめや虚しさだけでは済まないのです。

聖書は、死んでおしまいではなく、死後の世界があることを教えています。人は、神に背を向けたまま死ぬなら、その人の霊魂は、「よみ」とか「地獄」と呼ばれる場所に下ります。他方、神を信じて、信仰によって「永遠のいのち」を受け取り、信者となって死ぬのなら、その人の霊魂は天に引き上げられ、復活の日を待ちます。そして、その復活の日、信者はキリストと同じ、二度と死ぬことのない体を与えられ、再びこの地上に立つのです。

キリストの復活を信じ、自分もそうなる信じること（神がそうなさったこと、神がそのように約束されていること）を、「そのとおりです」と信じましょう。これは、神を信頼し神を正しいとすることです。神に信頼する人を、神は救ってくださいます。

「キリストの死は自分の罪のためであった、キリストは死んで葬られ、三日目によみがえった」と、あなたが信じるなら、あなたは永遠のいのちを受け取ります。あなたが、今までの人生でどんなに悪いことをしてきたとしても、関係ありません。逆に、自分では精一杯正しいと思うことをしてきたとしても、永遠のいのちをいただくためには、足りません。自分の行いではなく、神の恵みによって、永遠のいのちを受け取るのです。それを受け取るためにあなたがなすべきことは、ただ一つ、神の前に身を低くして、次のように祈ることです。

「天の神さま、私はあなたが天地万物を造り、私にいのちを与えてくださったお方であることを信じます。そして、キリストが私たちの罪のために死んでくださったこと、墓に葬られたこと、そして三日目に復活したことを信じます。私の罪は赦されたこと、復活の体を与えられることを信じます。この祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」